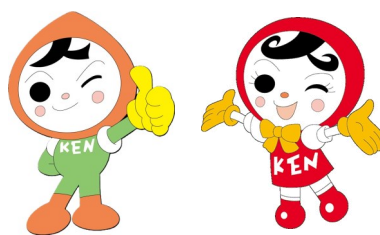


# さざなみ

- ・イベントレポート 令和7年度第2回男女共同参画セミナー  
『多様な性をスポーツから考える  
～ジェンダーを超えて可能性を広げるスポーツ～』



- ・男女共同参画推進員活動報告  
～ 玉造中学校 人権教室 ～
- ・男女共同参画コラム



- ・男女共同参画推進員の活動を振り返って

# 多様な性をスポーツから考える

## ～ジェンダーを超えて可能性を広げる スポーツ～

令和7年11月22日（土）に成田市男女共同参画センターにて「令和7年度第2回 成田市男女共同参画セミナー」を開催しました。

スポーツは元来楽しく、それに取り組む人たちの人生を豊かにし、可能性を広げる身体活動ですが、身体活動であるがゆえに、身体・性の多様性が顕著が浮き彫りになることで、LGBTQ+当事者の人たちが、居心地の悪い思いをしたり、スポーツ活動を諦めたり、可能性を閉じなければならない事態が起きていることに着目し、スポーツを通じて、性の多様性を理解し、ジェンダーを超えて、すべての人がスポーツで可能性を広げられるようにするにはどうすればよいかを学びました。



まつみや ともき

講師：松宮 智生 氏

（東洋大学法学部教授）



▲講義の様子

### 参加者からの感想

生きづらさを感じながらも、声を上げ続けることがとても大切だということがわかりました。今すぐには難しくても、必ず未来に繋がると信じています。

アスリートの皆さんに勇気をもらいました。

知らないことが差別に通じる。正しく知ることが理解への道だということを理解した。

スポーツにおける多様な性が尊重される社会の実現に向け、「LGBTQ+などの性的マイノリティの人達が直面する困難さについて考える」として、東洋大学法学部松宮智生教授にご講演を頂きました。

性的マイノリティの人達が直面する課題として、一般的な男女別に区分けされること、すなわち、生まれたときの性別（からだの性）と性自認が一致していることを前提としている中



▲受講風景

で、そうではないアスリートは排除される傾向にある旨のお話を伺いました。固定観念や偏見により、バッシングを受け、アスリート自身の性的指向や性自認を公表することで、差別や偏見にさらされることから、カミングアウトできない状況に追い込まれることもあり、競技に参加することの難しさを痛感しました。

2021年東京オリンピックに参加した、重量挙げ女子87キロ超級のニュージーランド代表の、トランスジェンダーのローレル・ハバード選手が出場し、競技参加において、「元男性が女性の競技に出場するのは不公平ではないか」といった議論が存在する中、その審査基準として、「性自認の宣言」と「テストステロン値」により公平性を判断することの難しさや、多様な人々が公平にスポーツに参加できる環境を構築するルール作りの必要性について、

参加者：27名



▲講師を囲んで。男女共同参画推進員の皆さん

公平性を確保するうえで改めて考えさせられました。（小川推進員）



# 男女共同参画推進員活動報告

令和7年12月4日(木)玉造中学校の全校生徒を対象に行われた人権教室で、佐野推進員・勝見推進員・内田推進員が講師を務め、男女共同参画社会について、実現するためにはどのようなことが必要なのかお話ししました。生徒たちは、真剣に聴き、自分にできることは何かを一生懸命に考えていました。



2年前に推進委員として任命され、私自身も市民の皆さんと共に学び、社会教育の実践ができました。男女共同参画社会の推進の鍵の一つは、すべての世代の意識改革だと思います。その一環として昨年から取り組んでいる中学校での人権教室での啓発活動は、男女共同参画の意義や無意識の思い込みについて子ども達に直接伝え、考えてもらうきっかけになったと思います。生徒の皆さんが、真剣に耳を傾ける姿はこちらも心が暖まり爽やかな達成感を感じる事ができました。直接、学校現場に出向、男女共同参画について伝える機会をいただき感謝いたします。推進員としてささやかな実践第一歩となりました。(勝見推進員)

このたびは、玉造中学校の皆さんの前で話しする機会をいただき、とても光栄でした。自分が中学生だった頃を思い出しながら、できるだけ身近で伝わりやすい言葉を意識してお話ししました。私自身、社会に出るまで男女の違いを強く意識していなかったからこそ、生徒の皆さんには悲観的になりすぎず、こうした現実があることと、一人ひとりの協力が大切だということを伝えたいと思いました。皆さんが静かに耳を傾けてくれた姿が印象的で、次の機会があれば、より楽しく主体的に参加できる形でお話ししたいと感じました。(佐野推進員)



中学生になると性問題に興味を持ち始め、友だちや先輩との会話にその話題が出てくる。正しい考え方を教えてもらう機会がないと異性に対する人権問題として、性的な内容をとらえられないと思う。また父兄や両親との理解の差も生じやすい。今回のような講話は、疲れる内容であるが工夫を加えて聴きやすい内容に変えて話してあげられるよう努力してゆきたい。(内田推進員)



▲講師を務めた佐野推進員・勝見推進員・内田推進員

## コラム

### LGBTQと性の多様性

～性自認や性的指向は変わることも～



性のあり方には、自分自身の性別をどう思っているかの「性自認」、恋愛や性愛の対象がどの性別になるかの「性的指向」などいろいろな側面があり、LGBTQの方だけでなく、すべての人がいろいろなパターンを持っています。

また、性的指向や性自認は、成長していく過程やいろいろな知識を得ていくことで自分自身への理解が深まり、変化していくこともあります。「男だから、女だから」に固執せず自分自身と向き合って、受け入れることが大切です。



今年1年、男女共同参画の活動に関わる中で、地域の皆さんと温かくつながりながら、多様な考え方に触れることができました。日々の中で生まれた小さな気づきが、自分の視野を広げてくれたように感じています。成田市が誰にとっても安心して過ごせる優しいまちになるよう、来年度も自分のペースで関わっていけたらと思っています。



(土屋推進員)

男女共同参画推進員の活動に参加させていただいて、もうすぐ1年になります。前回の5年前の3年間参加させていただいた時に較べて現在の推進員の皆さんは、しっかりした自分の考えを持って参加しておられるので、毎回のミーティングで皆さんの考えを表明される意見を聞かせていただくのがとても楽しみです。今後はその意見を自分の身の回りの知人との会話で参考意見として表明することで女性の地位向上と女性参政権80年に向けた啓発、広報の提案に力を尽くしてゆきたいです。



(内田推進員)

令和7年度の活動を振り返って環境の変化を感じられる1年だったなと思います。それは男女共同参画やSDGs、LGBTQなどの取り組みがまだ社会的認知が進まない中、一方ではその取り組みそのものに対する逆風を感じさせることが多かったことです。その中で男女共同参画推進員としてどう取り組んでいけば良いのかと自問することもありましたが、その一方で日本初の女性首相の誕生があったということは着実に私たちの望む社会が近づいているのかなと思われま。現に成田市男女共同参画推進員のメンバーの中にも男性が増えているということも前進の表れだと思います。本年の活動の中でもそれぞれの専門家の実践的な話を聞いたことはたいへん有益であったと思っています。中でも千葉真子さんを講師として招いた講演会は再度催したいと思うほどのものでした。たとえ歩みが遅くともやはり淡々と活動することに意義を感じた1年でした。



(佐藤推進員)

## 男女共同参画推進員の 1年間の活動を 振り返って



あ り が と う  
ご ざ い ま し た。  
(重廣推進員)

あ り が と う  
ご ざ い ま し た。  
(橋川推進員)



男女共同参画推進委員として1年間活動し、さまざまな講演やワークショップに参加させていただきました。学びだけでなく、推進員や参加者の皆さんの声を聞き、特に男性や高齢の方からの男女差別に対する視点に触れられたことが印象的でした。私の周りの20~30代では、選挙権がない、職業が制限されるといった分かりやすい男女差は減りましたが、家事負担やキャリア、収入、災害時のリスクなど、見えにくい差は今も残っています。こうした課題を口にする逆差別と受け取られることもある中で、立場を越えて率直に話し合える場があることを、心強く感じました。



(佐野推進員)

この活動で得た学びを子育てや仕事に生かすことで、身近なところから変化を起こせると感じました。多角的な視点からの気づきは、誰にとっても大切で、正解のない課題に向き合うきっかけとなり、これからも皆で考えていきたいと思いました。



(佐瀬推進員)

推進委員として2年間セミナーやワークショップの運営に携わる中で、私自身も市民の皆さんと共に学び合うことができました。講師や推進員の皆さんとの出会いは新たな発見があり、貴重な経験となりました。



(勝見推進員)

今年度、男女共同参画に初めて参加しました。きっかけは、本制度の実態を知りたいと考えた為です。参加を通じ、日頃からの声かけや、災害時の役割分担など身近で幅広いテーマがあることを学び「働く」など単純な話ではなく、意識を向けるべき事柄が多数あると気づかされました。ただ、男女共同参画を広める活動としては、まだまだ工夫や活動の必要性も感じた1年でした。



(武政推進員)

千葉真子さん、松宮智生さんの講演に参加でき、スポーツの素晴らしさ、おもしろさを痛感し、日常の誰にでも体験する様々なことに対して、男女と言う性別からくる社会一般の差別的解釈について、平等であるべきとするおもしろさなど、男性らしさ、女性らしさとはなにかを改めて考える機会を頂き感謝いたします。



(小川推進員)

事務局より：1年間共に活動していただいた推進員の皆さん、お疲れ様でした。この場をお借りして御礼申し上げます。成田市では今後も、推進員の皆さんと男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めてまいりますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

※さざなみは、市役所、各支所、公民館、図書館、保健福祉館、公津の杜コミュニティセンター、三里塚コミュニティセンター、男女共同参画センターに配架しています。また、市のホームページでもご覧いただけます。登録番号 成協25-035